

腹壁破裂を認めたバンドウイルカ (*Tursiops truncatus*) 新生子の 1 症例

○和田 夏海¹, 木下 克利¹, 櫻井 優², 近藤 圭佑¹

(¹ マリンワールド海の中道, ² 山口大学・獣医病理学研究室)

A case report of a newborn bottlenose dolphin (*Tursiops truncatus*) with gastroschisis.

○Natsumi Wada¹, Kinoshita Katsutoshi¹, Sakurai Masashi², Keisuke Kondo¹

¹MARINE WORLD uminonakamichi, ²YAMAGUCHI UNIVERSITY Laboratory of Veterinary Pathology

[目的] 腹壁破裂は腹壁の全層を欠損し、内臓の脱出を伴う病態である。新生児の腹壁破裂は胎齢初期の腹膜形成不全が原因とされており、ヒトではおよそ 10,000 出生に 1 例の割合で確認されている。一方、動物、特に鯨類において、新生子の腹壁破裂症例に関する報告はない。そこで、当館において腹壁破裂を認めたバンドウイルカ新生子症例を経験したため報告する。

[材料と方法] 当症例はマリンワールド海の中道で飼育するバンドウイルカ（当時推定 37 歳）より出生した。妊娠中の超音波検査において、排卵 61 日後に、胎子に横断面で腹部に突出部があることを確認した。排卵 68 日後には縦断面においても下腹部に突出部があることが明瞭に描出された。バンドウイルカ新生子の臍帯ヘルニアの既報から、胎子に同様の腹壁異常があることを想定した。排卵 348 日後（出産の約 2 週間前）における超音波検査では、胎子の腹壁が広域に欠損し、肝臓や腸管が胎水中に浮いていることを確認した。この結果から、出生後の生存確率は低いと判断した。妊娠期間は 364 日間であり、生殖溝から胎子の尾びれが見えてから 1 時間 14 分で産出に至った。出生後、目視で新生子の腹壁破裂を確認した。出生直後は尾びれを動かしていたが、その後 2 分程度で動きが確認できなくなり、死亡を確認した。

[結果と考察] 母獣の新生子への執着により死亡直後に回収できず、出生から約 9 時間後に回収・解剖を実施した。体長は 119.4cm、体重 16.72kg であった。外観より体幹が湾曲していたため、レントゲン・CT 撮影を実施したが、脊椎湾曲症は認められなかった。腹壁破裂部からは肝臓と腸管、脾臓、胃の一部が脱出していた。腹腔内に膀胱は確認できなかった。腹壁破裂部のさらに尾側では、腹壁は欠損しているものの、1 層の膜組織が確認された。病理組織検査の結果、粘膜・粘膜下組織・平滑筋層・外膜からなる層構造が認められ、この膜組織が膀胱組織であり、異所性膀胱であることが確認された。また、同じく病理組織検査によって腹腔内の生殖巣は精巣や精巣上体であることが確認されたが、ペニスなどの外部生殖器や前立腺は欠損していた。

当症例では腹壁破裂に加えて、異所性膀胱、一部生殖器欠損が確認された。当症例の経過より、妊娠初期の超音波検査で診断が可能であり、かつ胎子の臓器の成長につれて欠損の程度や合併症の有無の確認も可能であることが示唆された。